

DP科目と高等学校学習指導要領における科目との対応関係

(教育課程特例校指定申請) について

副校長 唐川 和彦

1. 本校国際バカロレアコースのカリキュラム概要

学習指導要領と IB カリキュラムを両立させている本校のカリキュラムは、本校国際バカロレアコースの特色のひとつである。生徒は1年次の12月までに高等学校学習指導要領上の必履修科目の多くを学び、翌1月からDP科目を学び始める【資料1】。

【資料1】

横浜国際高等学校 国際バカロレアコース 令和5年度教育課程(案)

【1年次4~12月】

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 |
|----|----|----|----|------|------|-----------------|---|---|------|---------|----|------|----|------|----|----|------|-----|----|------|------|----|------|----|----|-----|----|------|------|------|------|-----|----|
| 全員 | 体育 | 保健 | 総合 | 前倒し分 | 前倒し分 | ディベート・ディスカッションI | | | 前倒し分 | 科学と人間生活 | | 前倒し分 | | 言語文化 | | | 前倒し分 | 数学I | | 前倒し分 | 地理総合 | | 前倒し分 | 公共 | | 音楽I | | 前倒し分 | AW2外 | AW2外 | AW2外 | LHR | |

【1年次1~3月】

| | | | | | | | | | | | | | |
|------|----|----|--------|-----------------|-----------|-----------|-------------|--------|------------|------|------|------|-----|
| 一般文系 | 体育 | 保健 | TOK=総合 | G2 English B HL | G4 | G1 | G5 | G3 | G8 IB音楽 SL | AW2外 | AW2外 | AW2外 | LHR |
| 一般理系 | | | | G1 English A HL | IB生物SL | IB日本語AHL | Math A&A SL | IB歴史HL | G4 IB化学 SL | | | | |
| 帰国文系 | 体育 | 保健 | TOK=総合 | G1 English A SL | G4 IB物理HL | G1 | G5 | G3 | G4 | AW2外 | AW2外 | AW2外 | LHR |
| 帰国理系 | | | | G2 English B SL | G4 IB生物HL | IB日本語A SL | Math A&A HL | IB歴史SL | IB化学HL | | | | |

高等学校を卒業するためには、「3年間以上在籍すること」「3年間で74単位以上の修得」「3年間でホームルーム活動や生徒会活動、学校行事などの特別活動への取り組みが良好であること」という3つの条件が必要とされている中で、1年次1月までのカリキュラムに設置できなかった学習指導要領上の必履修科目の一部を2~3年次のDPカリキュラムに並行設置すると同時に、文部科学省が示す「新学習指導要領との対応関係【資料2】」の仕組みの活用と教育課程特例校指定申請を併用し、DP科目の一部を学習指導要領上の必履修科目の一部に対応させたカリキュラムを構築している。これにより、本校国際バカロレアコースの生徒は学びの多くをDP科目に費やしているにもかかわらず、日本の高等学校卒業資格を得ることが可能となっている。

2. 「新学習指導要領との対応関係」(文部科学省)

令和3年4月28日に実施された中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会で、令和4年度入学生から導入される新学習指導要領上の必履修科目とDP科目対応関係表が公表された。これにより本校では、【資料2】とおり自動的に複数DP科目を学習指導要領上の必履修科目に対応することが可能となった。このような対応表が公示される以前は、DP科目と学習指

導要領上の必履修科目を対応させるため手続きに多くの時間とエネルギーを要する「教育課程特例校指定申請」を科目ごとに行う必要があった。この対応表の公示により、本校を含め、1 条校にとっては、DP 科目と学習指導要領上の必履修科目の平行による弾力的なカリキュラム運用が可能になった。

【資料 2】

新学習指導要領との対応関係



■ 必履修科目の対応関係

| 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム | 高等学校学習指導要領 (平成30年改訂) |
|--|-------------------------|
| 言語A：言語と文学 (SL, HL両方) 言語A：文学 (SL, HL両方) | 現代の国語、言語文化 |
| ジオグラフィー (SL, HL両方) | 地理総合 |
| ヒストリー (SL, HL両方) | 歴史総合 |
| マセマティックス：アナリシス・アンド・アプローチ (SL, HL両方) マセマティックス：アプリケーションズ・アンド・インタープリテーション (SL, HL両方) | 数学 I |
| フィジックス (SL, HL両方) ケミストリー (SL, HL両方) バイオロジー (SL, HL両方) | 物理基礎 化学基礎 生物基礎 |
| ミュージック (SL, HL両方) | 音楽 I |
| ヴィジュアル・アーツ (SL, HL両方) | 美術 I |
| 言語B：English (SL, HL両方) | 英語コミュニケーション I |
| セオリー・オブ・ナレッジ | 総合的な探究の時間 |

※ HL=上級レベルのカリキュラム、SL=標準レベルのカリキュラム 6

3. DP 科目「English B (SL/HL)」及び「English A (SL/HL)」と『総合英語 I』及び『ディベート・ディスカッション I』との対応

本校は単位制による全日制の課程の専門学科（国際科）であることから、「学習指導要領」及び「神奈川県立高等学校教育課程編成基準」により、令和 4 年度より外国語科（英語）の必履修科目として「総合英語 I」及び「ディベート・ディスカッション I」を設置しなければならない。今回公示された新学習指導要領上の必履修科目と DP 科目対応関係表【資料 2】に「総合英語 I」及び「ディベート・ディスカッション I」の対応がないため、これらについて別途、教育課程特例校指定申請を行っている。

